

# 多治見市陶磁器意匠研究所 中長期全体方針

令和8年3月

## 目次

1. はじめに	1
2. 意匠研究所の沿革	1
3. 意匠研究所の概要	2
(1) 施設概要	2
(2) 研究生の定員	2
(3) 研究生数及び志願者数の推移	2
(4) 所内見取り図	3
4. 意匠研究所の現況	4
(1) 事業の現況	
①人財育成事業	
②国際交流事業	
③業界支援事業	
(2) 施設の現況	
5. 目指すべき未来像	4
(1) 事業の在り方	
①人財育成事業	
②国際交流事業	
③業界支援事業	
(2) 施設整備の在り方	
6. 中長期全体方針	5
(1) 方針の期間	
(2) 方針の構成	
(3) 第1章 事業方針	
(4) 第2章 施設整備方針	
7. その他	7

## 1. はじめに

第8次多治見市総合計画では、やきものづくりに携わる人財の安定的な育成・支援のため、多治見市陶磁器意匠研究所（以下、「意匠研究所」という。）の未来像を検討し、今後の方針を定めることとしています。

今後の方針の策定には、現在の業務や、意匠研究所を取り巻く状況、陶磁器産業への貢献、社会情勢の変化などを検討材料に、まずは目指すべき未来像を描きました。

そして、今後10年間を見据えた第1章：事業方針と第2章：施設整備方針で構成する「中長期全体方針」の策定に着手しました。

ただし、施設整備方針については、建て替え、移転、他の施設との統合等様々な要素を総合的に検討する必要があることから、令和8年度中に別途改めて策定することとしました。

## 2. 意匠研究所の沿革

昭和26年（1951年）10月

多治見陶磁器上絵加工工業協同組合により、美濃焼上絵付研究所が多治見市弁天町に設立

昭和28年（1953年）6月

上絵付技術者養成の特別研修生制度が発足、夜間研修を開始

昭和31年（1956年）5月

特別研修生制度の夜間研修を廃止し、昼間研修に変更

昭和33年（1958年）4月

特別研修生制度を改め、新しく2年間の研究生養成制度とし、第1期生12名が入所

昭和34年（1959年）10月

美濃焼上絵付研究所を多治見市に移管し「多治見市陶磁器意匠研究所」として発足

昭和35年（1960年）3月

意匠研究所第1期生（昭和33年入所）が修了

昭和42年（1967年）3月

多治見市美坂町に鉄筋コンクリート造2階建新庁舎（現在の本館）完成

昭和58年（1983年）3月

陶磁器技術開放センター（現在の交流棟）完成

平成5年（1993年）4月

研究生養成制度充実のため「デザインコース・技術コース」の2コース制に変更

平成15年（2003年）4月

研究生養成制度に新コース「セラミックスラボ」開設

平成27年（2015年）4月

「セラミックスラボ」に外国人特別選考を設置、募集を開始

平成28年（2016年）5月

本館1階に作品展示スペース「ishoken gallery」を開設

令和5年（2023年）9月

IAC国際陶芸アカデミーに法人会員として入会

### 3. 意匠研究所の概要

#### (1) 施設概要

- ①所在地 美坂町2丁目77番地
- ②敷地面積 5,788.80 m<sup>2</sup>
- ③延床面積 2,806.38 m<sup>2</sup>
- ④用途地域 第一種住居地域
- ⑤建物情報

建物名	構造	延床面積 (m <sup>2</sup> )	完成年月日	Is 値
本館	鉄筋コンクリート造	1,118.40	S42.3.31	0.95
研修棟Ⅰ	鉄骨ﾌﾟﾚﾊﾞﾞ造	275.89	H4.2.25	新耐震基準
研修棟Ⅱ①	鉄骨造	193.68	S48.4.1	0.62
研修棟Ⅱ②	鉄骨造	60.11	H2.12.1	新耐震基準
研修棟Ⅲ①	鉄骨造	51.03	S55.3.31	0.29
研修棟Ⅲ②	鉄骨造	249.48	S56.7.19	0.46
研修棟Ⅳ	鉄骨造	150.10	S46.7.1	0.44
交流棟	鉄筋コンクリート造	515.43	S58.3.18	新耐震基準
焼成棟	鉄骨造	96.72	S58.3.18	新耐震基準
車庫	鉄骨造	32.94	S54.2.10	耐震診断未実施
渡り廊下	鉄骨造	62.60	S58.3.18	新耐震基準

#### (2) 研究生の定員

- ①デザイン・技術コース 20人
- ②セラミックスラボ通常選考 3人程度
- ③セラミックスラボ外国人特別選考 3人程度

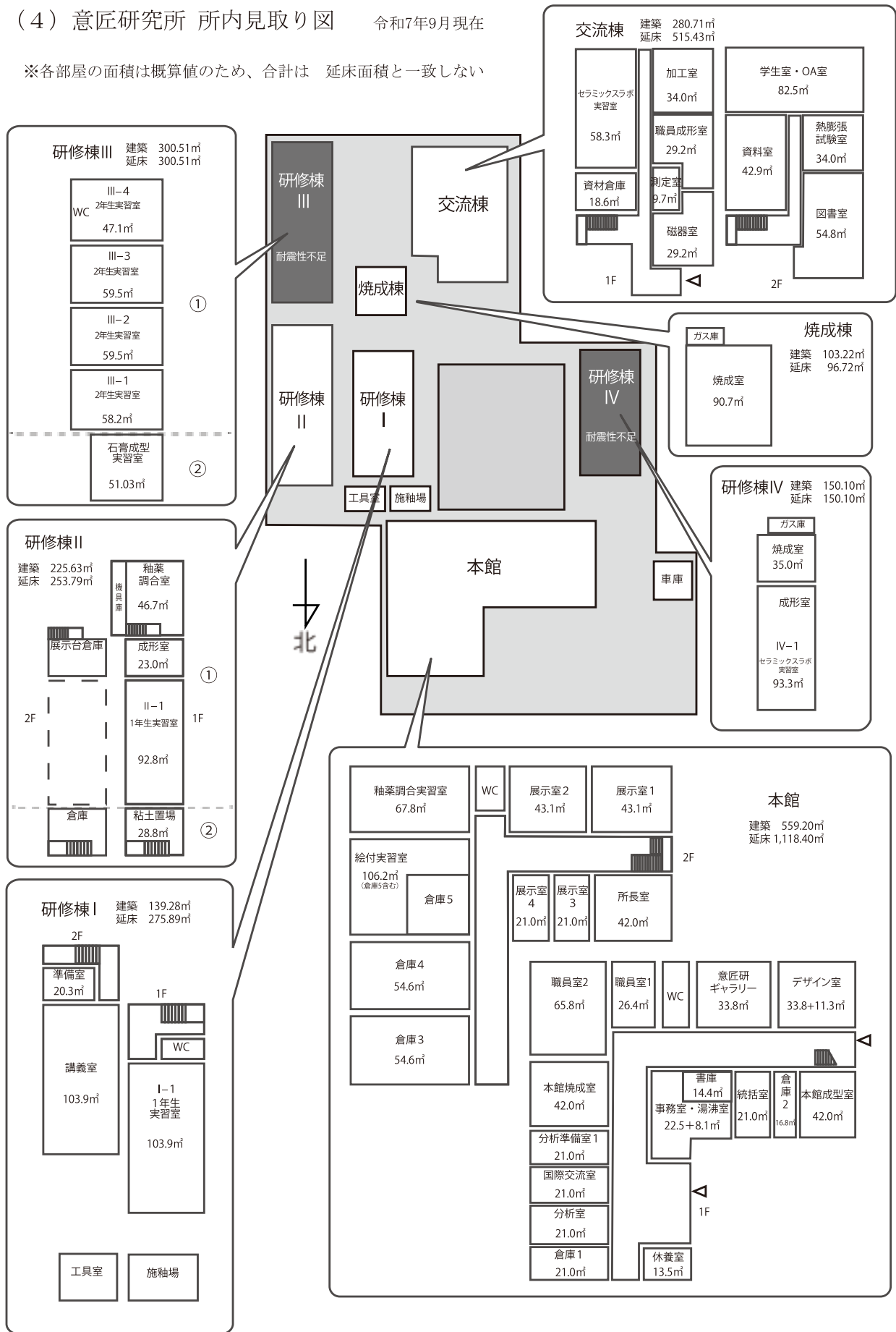
#### (3) 研究生数及び志願者数の推移

年度	研究生数					志願者数			
	ﾃﾞﾞ技 1年	ﾃﾞﾞ技 2年	ﾗﾞﾞ通	ﾗﾞﾞ外	合計	ﾃﾞﾞ・技	ﾗﾞﾞ通	ﾗﾞﾞ外	合計
R4	20	5	6	6	37	24	6	3	33
R5	20	19	0	5(3)	44(3)	22	0	5(3)	27(3)
R6	20	20	6	3	49	34	7	4	45
R7	19	19	4	6	48	28	5	11	44
R8	20	18	7	7(4)	52(4)	30	12	15(4)	57(4)

- ・年度当初の人数（令和8年度は令和8年1月末時点での予定）
- ・（ ）内は、うちセラミックスラボ延長の人数
- ・ﾃﾞﾞ技：デザイン・技術コース ﾗﾞﾞ通：セラミックスラボ通常選考 ﾗﾞﾞ外：セラミックスラボ外国人特別選考

(4) 意匠研究所 所内見取り図 令和7年9月現在

※各部屋の面積は概算値のため、合計は 延床面積と一致しない



## 4. 意匠研究所の現況

### (1) 事業の現況

#### ①人財育成事業

産業と文化の両面から美濃焼を担う人財の育成を行う事業です。2年間の研修を行う「デザイン・技術コース」、その上位コースである「セラミックスラボ」からなります。

これまで、国内外から集まった1,000名を超える修了生を輩出し、産業界だけではなく文化の担い手を養成する機関として広く認知され評価を得ています。

#### ②国際交流事業

意匠研究所では、やきものを通じた国際交流を推進しています。

IAC 国際陶芸アカデミーや国際陶磁器フェスティバル美濃との連携、海外から多数の視察受入れなど国際交流にも力を入れ、世界的に「ishoken」の名前は知られているところです。

#### ③業界支援事業

デザイン・技術的な受託業務、共同研究、検証実験、技術的相談等を実施しています。

陶磁器製品の品質保証に欠かせない、鉛・カドミウム溶出試験、スポーリング試験の受託件数は国内でも最多レベルです。

近年では3Dモデリング機器の陶磁器産業での活用について業界と協働で研究、新製品開発支援を実施しています。

### (2) 施設の現況

昭和42年に完成した本館をはじめ、各実習棟のほとんどが築40年以上経過しているため老朽化が著しく、破損も目立ちます。また、一部の建物は耐震性が不足しています。何度も建て増したことによる導線の悪さや、手狭感もあります。

## 5. 目指すべき未来像

### (1) 事業の在り方

#### ①人財育成事業

人財育成事業においては、少子化の影響を考慮し、全体の定員の削減を検討する必要があると考えています。このような状況下において、今後は、職員の指導力の向上を図るとともに、セラミックスラボの定員を増員・強化することで、より優秀な人財を育成することに重点を置きます。併せて、シェア工場の整備、地元陶磁器業界との連携により、修了生支援を充実させ、修了生の地元定着促進を図っていきます。

#### ②国際交流事業

今後の国際交流事業は、IAC 国際陶芸アカデミー2030年総会開催や国際陶磁器フェスティバル美濃とのさらなる連携、積極的な海外からの視察の受け入れ等を進めて、世界とつながる「ishoken」を確立し、多治見市におけるやきものを通じた国際交流のハブとなる機関を目指します。

#### ③業界支援事業

業界支援事業で行う、品質保証に関する依頼試験や新商品開発に関する技術支援は必須であり、今後も一定程度の受託件数が見込まれるため、全般的には維持していきます。

### (2) 施設整備の在り方

耐震性を確保し、安心安全で快適な研修環境・執務環境となるよう整備を進めます。

## 6. 中長期全体方針

### (1) 方針の期間

令和8年度（施設整備方針は令和9年度）から令和17年度（10年間）

### (2) 方針の構成

第1章 事業方針

第2章 施設整備方針

### (3) 第1章 事業方針

今後の事業の方向性と主な事業内容は次の通りとします。

事業分類	事業内容	【方向性】
		その理由 主な事業計画等
人財育成	研究生研修・修了生支援	<p><b>【強化】</b> 優秀なやきものの担い手を育成し、地元美濃焼業界に貢献することはもとより、世界で活躍する人財を輩出し「ishoken」を広くアピールするのに有効であるため。</p> <p>①成果の発表（公開講義等）も含めた職員個々の研究を深めて研究生への指導力向上を図ります。 ②設備や施設の更新により快適な研修環境を提供します。 ③少子化の影響を見据え状況に応じて、デザイン・技術コースの1学年の定員の縮小を検討します。一方、優秀な修了生をより多く育成する方向性でセラミックスラボ定員の増員を検討します。 ④意匠研陶芸スタジオを設置・運営します。 ⑤人財育成事業の成果として、優秀な修了生を紹介する大規模な企画展等を定期的で開催します。 ⑥地元陶磁器関連企業との連携等、修了生の地元定着促進を図ります。</p>
国際交流	IAC 国際陶芸学会関係	<p><b>【強化】</b> IAC 国際陶芸アカデミー関連事業は世界とつながる「ishoken」を実現する効果的な事業であるため。</p> <p>①2030年 IAC 国際陶芸アカデミー総会を開催します。 ②総会以外でも IAC 会員のネットワークを活かした PR 活動や情報収集を継続的に行います。</p>
	国際陶磁器フェスティバル美濃との連携	<p><b>【強化】</b> 国際陶磁器フェスティバル美濃と下記 IAC 総会の連携は、多治見・美濃焼を世界にアピールする絶好の機会であるため。 ・フェスティバル実行委員会と連携してお互いに効果的な事業を実施します。</p>
	海外機関との連携、来訪者関係	<p><b>【強化】</b> 世界とつながるチャンネルの増加が期待でき、より多治見・「ishoken」を知ってもらう機会となるため。</p> <p>①多治見市や意匠研究所にとって有意義な連携は積極的に進めます。 ②海外からの視察、見学は引き続き積極的に受け入れます。</p>

事業分類	事業内容	【方向性】
		その理由 ----- 主な事業計画等
業界支援	デザイン支援	<b>【縮小】</b> 3Dモデリング技術を活用した新商品開発支援は、既に陶磁器業界に認識されており、所期の目的を達成したため。 ----- ①有志企業で行っていた3Dモデリングを活用した製品開発研究会は今後廃止し、下記新商品開発支援②へシフトします。 ②3Dモデリングに関する受託業務は一定程度見込まれるため、当面の間は継続します。
		<b>【強化】</b> 企業と修了生が協働で新商品を開発する令和7年度から開始した新規企画。製品の付加価値、若い人財の応援、広報力の相互補完に効果が期待できるため。 ----- ・企業と修了生が新商品をふるさと納税返礼品として開発。各々のWeb媒体を駆使した広報活動も実施します。
		<b>【縮小】</b> 庁外からの受託数は減少傾向にあるため。 ----- ・今後も受託数が増加する見込みがないため、上記新商品開発支援②に重点を置きます。
	技術支援	<b>【維持】</b> 今後も一定程度受託数が見込まれるため。 ----- ①法規制等に関連する試験であり、商品流通のため業界にとって必要不可欠な事業です。 ②業務は継続しますが設備投資等は必要最小限に留めます。
		<b>【維持】</b> 今後も一定程度相談数が見込まれるため。 ----- ①年間200件前後の相談が市内外からあるため、担当者の配置は継続します。 ②検証のために必要な分析等で、当所で対応不可能なものは近隣研究機関との連携で対応します。

#### (4) 第2章 施設整備方針

公共施設適正配置計画や公共施設長寿命化計画との関係を踏まえ、他施設との統合の可能性や、移転、建て替え、リノベーションかなど検討する必要があるため、令和8年度中に別途策定することとします。

## 7. その他

中長期全体方針の策定にあたり、市内 15 の陶磁器関連組合傘下の各組合員に、「目指すべき未来像」「事業方針」についての意見聴取にご協力いただきました。

課題意識を持つべき事柄に関するご提案や、力を入れるべき事業などについてご意見を頂きましたが、おおむね賛同をいただき、方向性を修正しなければならないようなご意見はありませんでした。

### (1) ご協力頂いた組合

①岐阜県顔料商工組合	⑨岐阜県窯業原料協同組合
②滝呂陶磁器工業協同組合	⑩多治見陶磁器卸商業協同組合
③市之倉陶磁器工業協同組合	⑪美濃タイル商業協同組合
④高田陶磁器工業協同組合	⑫協同組合ケーエスジー
⑤笠原陶磁器工業協同組合	⑬全国タイル工業組合岐阜県支部
⑥多治見美濃焼卸センター協同組合	⑭協同組合 陶の里いちのくら
⑦多治見陶磁器上絵加工工業協同組合	⑮滝呂商業協同組合
⑧多治見輸出陶磁器完成協同組合	

(2) 意見聴取期間 令和 7 年 12 月上旬～12 月 26 日（市之倉工組のみ 1 月 9 日）

(3) 得られた意見 6 者 12 項目

(4) 頂いた意見と回答

No.	頂いた意見（要約）	回答
1	（研究生作品展を見て）我々販売を生業とする者にとって、余りにもかけ離れた世界である事を実感した。一般の美濃焼に関わっている多くの方々に親しみやすい意匠研究所にして頂けると大変有難い。（例えば）生活スタイルをイメージ出来る様に具体的なテーマを持ったデザイン企画等もあって良いのではないかと。	当所では器や注器など、道具の制作を基盤として研修を行っておりますが、造形作品を追求する研究生もおり、彼らの個性を尊重しております。造形作品の場合、食器など実用的なものより一般的には親しみにくいかもかもしれませんが、食器にせよ造形作品にせよ、多様な感性を持つ若者の表現として暖かく見守っていただけましたら彼らの励みになりますのでよろしく願いいたします。
2	陶芸アカデミーと陶磁器フェスティバルの開催。美濃焼の将来に期待します。	2030 年に開催が決定した国際陶芸アカデミー総会が、陶磁器フェスティバル美濃期間中に美濃焼地域の関係各所と連携し、美濃焼の将来に貢献できるよう進めてまいります。
3	販路や流通など、今どきの売れ筋商品の開拓の検討を期待します。	販路や売れ筋商品については、陶磁器業界の皆様のご専門分野であると認識しておりますが、当所も常に関連情報に注視し皆様の一助となれればと考えています。
4	食器への支援が多い、というか殆どである印象で、タイルとの協業が非常に少ない。	近年の支援の中心として、3D モデリングに関する技術支援があります。例えば令和 7 年度の協働研究では、4 件中 2 件がタイルメーカー様であり、面白いアイデアをいただいています。次年度も募集を行う予定ですので食器・タイル問わず、ご参加いただければと思います。
5	原料の枯渇問題について、市だけでなく県や国も問題意識を持ってもらい対策を講じたい。	現在多治見市では、原料枯渇問題や CO <sub>2</sub> 排出、不良陶磁器の埋め立などの窯業界を取り巻く環境問題に対処するため、国や県、窯業関係者などに参画をいただき「M I N O サステナブル セラミック プロジェクト (M S C P)」で協議しております。このプロジェクトへのご理解とご協力をお願いします。
6	「3D モデリング技術を活用した新商品開発支援は、既に陶磁器業界に普及しており」とありますが、陶磁器業界には「普及」というより「認識」は広がっているという感じでしょうか。	ご指摘ありがとうございます。ご意見を参考に表現を改めます。

No.	頂いた意見（要約）	回答
7	「発想はあっても製品化は無理」「旧来の技術の常識から外れた製品を作りたい」と思っている企業はきっとあると思いますので、そこを掘り下げた活動も視野に入れていただけると幸いです。	当所では日常적으로お困りごとなどのご相談に応じております。人員や保有機器・技術などの制限はございますが、可能な限りご対応させていただきますのでご相談ください。
8	（「意匠研陶芸スタジオ」について）意匠研究所修了後、数年間利用可能な専用のスタジオを整備し、そこを「修了生が自立し、生計を立てるための場」と明確に位置付ける。この施設的具体化と、利用ルールの明確化（商業活動の許可、原材料費の有料化等）をぜひご検討いただければ幸いです。	「陶芸スタジオ」は、一定期間意匠研究所の支援のもと制作活動を行い、修了生の自立を手助けする施設として開設する予定です。修了生は利用料などを支払い、原材料等は自己負担となります。利用ルールは書面にて明確に定めることとしています。
9	研究生の募集人数を見直す方針には賛成いたします。少数精鋭で育てた研究生の方が、結果として産地への貢献も大きくなるのではないかと期待しております。	ご賛同ありがとうございます。2年制コースの定員を削減する一方、上位コースであるセラミックスラボを強化・増員することで、より多くの優秀な人材を育成し産地への貢献度向上を図ってまいります。
10	人手不足の解消や技術の伝承といった、より緊急度の高い課題も含めて、研究所にはぜひ幅広い視点でご検討いただければと願っております。	陶磁器業界を取り巻く喫緊の課題を念頭に、当所が果たすべき役割を今後も事業等に反映させてまいります。
11	今後の「意匠研究所」の方向につきまして全面的に賛同いたします。	ご賛同ありがとうございます。ご期待に沿えるよう努力してまいります。
12	意匠研の建物について、そろそろ建て直しされるか、旧市庁舎や他の施設を活用した移転などをお考えいただけましたら・・・いかがでしょうか。	ご指摘のとおり、施設の老朽化やスペース不足などの問題を抱えており、施設整備の必要性について検討を始めています。その中で建て替え・移転・統合等も選択肢に入れ検討してまいります。